



株主通信

第151期 (平成28年4月1日 ~ 平成29年3月31日)



zoom-zoom

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。
ここに、当社グループの第151期（2016年4月から2017年3月まで）
の業績ならびに今後の業績見通しについてご報告申し上げます。

2017年6月
代表取締役社長兼 CEO（最高経営責任者）

小飼 雅道



当期の概況

当期は、中期経営計画「構造改革ステージ2」の下、「走る喜び」と「優れた環境・安全性能」を両立する魅力ある商品をお届けするとともに、全領域でビジネスの質的成長を目指し、ブランド価値のさらなる向上に向けて取り組んでまいりました。

商品面では、新型「マツダ CX-9」、新型「マツダ CX-4」および新型「マツダ ロードスター RF」によるラインアップ拡充に加えて、2017年2月には、新型「マツダ CX-5」の販売を日本より開始し、順次海外市場に導入する計画です。また、新型「CX-5」は、思いのままに車を操る感覚をさらに高い次元に引き上げる車両運転制御技術の「G-ベクタリングコントロール」を搭載するなど、あらゆる領域で「走る喜び」の深化を図りました。

生産面では、グローバルに成長を続けるクロスオーバー系車種の需要に応えるため、2016年12月より防府工場で「マツダ CX-3」の生産を開始したことに加え、2017年11月

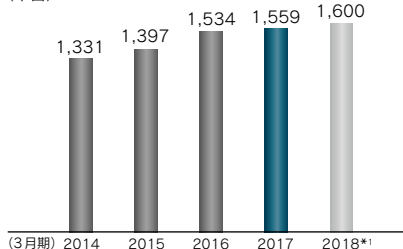
から同工場で新型「CX-5」の生産を開始することも決定しております。

当期の業績は、年間を通じて販売に寄与した「CX-3」や新型「CX-9」、中国で導入した新型「CX-4」などのクロスオーバー系車種の販売拡大により、グローバル販売台数は前期比1.6%増の155万9千台と過去最高の販売台数となりました。売上高は為替相場の円高影響により、3兆2,144億円（前期比1,922億円減、5.6%減）となりました。営業利益は、1,257億円（前期比1,011億円減、44.6%減）、当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は、938億円（前期比406億円減、30.2%減）となりました。

配当金につきましては、当期の業績および経営環境ならびに財務状況等を勘案して決定することを方針とし、安定的な配当の実現と着実な向上に努めることとしております。当期は、1株当たり35円（中間配当15円、期末配当20円）の配当とさせていただきます。

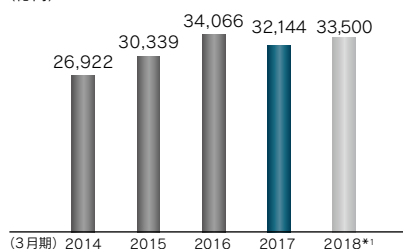
グローバル販売台数

(千台)



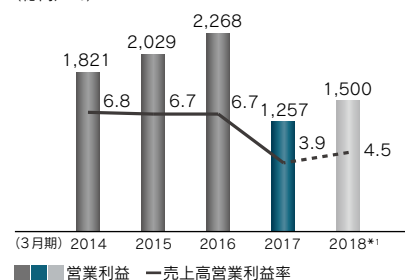
売上高

(億円)



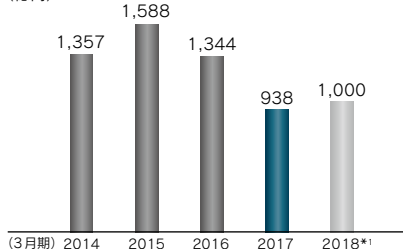
営業利益／売上高営業利益率

(億円／%)



当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)

(億円)



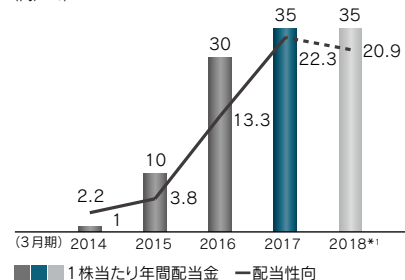
自己資本／自己資本比率

(億円／%)



1株当たり年間配当金*2／配当性向

(円／%)



*1 2018年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

*2 当社は2014年8月1日付で、5株を1株の割合で株式併合しています。

次期見通し

次期におきましては、新型「CX-5」の海外市場への展開に加え、3列シート採用の新型クロスオーバーSUV「マツダCX-8」の新規導入などSKYACTIV商品群の拡充により、競合力強化と台数成長を目指します。生産面では前期に引き続き、クロスオーバー系車種の需要増加に対応するため、防府工場での「CX-5」の生産開始に加え、本社工場でもさらなるクロスオーバー系車種の生産能力の拡大を図ります。持続

的成長に向けた次世代技術・商品の開発と生産など将来への成長投資は、予定通りに進めてまいります。

次期のグローバル販売台数は、前期比2.6%増の160万台、売上高は3兆3,500億円(前期比1,356億円増)、営業利益は1,500億円(前期比243億円増)、当期純利益は1,000億円(前期比62億円増)の見通しです。

配当予想につきましては、1株当たり35円(中間配当15円、期末配当20円)としております。

構造改革ステージ2

「構造改革ステージ2」の主要施策は、全領域でのビジネスの質的成長を目指し、着実に進捗しております。

まず、商品・開発領域では、新型「CX-4」や新型「ロードスター RF」を新たに導入したほか、2017年2月には、あらゆる領域で「走る喜び」を深化させた新型「CX-5」の販売を日本より開始し、順次海外市場に導入しております。今後も、2017年中に新型「CX-8」を、2019年3月末までに次世代技術搭載車を新たに市場投入するなど、商品価値を飛躍的に向上させた新商品をお届けしてまいります。

エンジンラインアップでは、日本で新たに「WLTCモード」*での認可を取得したガソリンエンジンを搭載する「CX-3」を追加し、2017年後半には、北米にクリーンディーゼルエンジンモデルを投入いたします。また、2.5L直噴ガソリンターボエンジン「SKYACTIV-G 2.5T」の搭載車種を拡大するなど、高付加価値のエンジン拡充を図り、お客さまの幅広いニーズに対応してまいります。

また、人馬一体の走行性能を高める新たな車両運動制御技術の第一弾「G-ベクタリング コントロール」の搭載

車種拡大や、日本で販売するほぼすべての新世代商品を対象に、先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブ センス）」の標準装備化を行うなど、既存商品の価値を継続的に向上させてまいります。

グローバル販売・ネットワーク領域では、新商品や商品改良モデルの投入により、2019年3月期の目標であるグローバル販売台数165万台に向け、年間5万台程度の持続的な台数成長に取り組んでまいります。また、商品価値の訴求による正価販売の推進や、より多くのお客さまに次もマツダ車を選んでいただくための施策を強化するほか、さらなるブランド価値の向上に向け、新世代店舗の展開等による販売網の改革を引き続き推進してまいります。

生産領域では、世界的なSUV需要の高まりに柔軟かつ迅速に対応するため、クロスオーバー系車種の生産比率を約50%まで拡大できる生産体制の構築に取り組んでおります。先進国を中心に乗用車需要が減少しておりますが、クロスオーバー系車種の増産を図ることで、グローバル生産拠点での稼働率をさらに向上してまいります。今後も、世界中のお客さまへ、より速やかにマツダ車をお届けする



米国 新デザイン店舗



「CX-3」防府工場生産1号車

ために、国内工場に加え、中長期的には海外工場を含む工場間の相互補完を進め、複数の車種を一層柔軟に生産できる体制を拡充します。また、次世代技術搭載車の生産設備投資を2018年3月期から開始いたします。引き続き、ハードウェアの機能統合による部品点数の削減活動を継続するとともに、先進安全技術・電動化技術による車載コンピューターの増加を統合制御により抑制させるなど、さらなるコスト改善に向けた技術開発を推進してまいります。

財務領域では、着実な台数成長とビジネスの質的成長によるブランド価値の向上により、収益力とキャッシュ・フロー創出力の向上に引き続き取り組みます。また、自己資本比率や純有利子負債などの財務指標を改善し、財務基盤を強化しつつ、研究開発や設備投資などの将来への成長投資を加速いたします。株主還元につきましても、安定的な配当の実現と着実な向上を図ってまいります。

このように、主要施策は着実に進捗しておりますが、為替を含む事業環境の変化を踏まえ、「構造改革ステージ2」の最終年度となる2019年3月期の連結売上高営業利益率の目標を修正し、「5%以上」といたしました。

* Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle(世界統一試験サイクル) モードの略称。
WLTP (Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure: 乗用車などの国際調和排出ガス・燃費試験法) に基づく測定方式。

2019年3月期 経営指標の見通し

▶ グローバル販売台数	165万台
▶ 連結売上高営業利益率	5%以上
▶ 自己資本比率	45%以上
▶ 配当性向	20%以上

(前提為替レート: 1米ドル108円、1ユーロ118円)

持続可能なクルマ社会の実現に向けて

マツダは、燃費向上によるCO₂排出量削減や事故削減に寄与する技術開発に一層注力し、環境・安全性能に優れた商品の導入等を通じ、地球環境保全や安心・安全な社会の実現といった社会的課題の解決と企業価値の向上の両立を目指してまいります。

ベース技術である内燃機関の技術進化とあわせ、グローバルで環境規制への対応や、安全なクルマ社会の実現に向け、電動化や安全技術開発を推進しています。2019年3月期以降に投入予定の次世代技術搭載車の開発は順調に進捗しています。

2017年秋には、主要な次世代技術・商品開発の一つとして、エンジン効率を飛躍的に向上させたSKYACTIV次世代ガソリンエンジン技術と、魂動デザインの次世代VISIONモデルを公表する予定です。

また、株主・投資家の皆様への適時・適切な情報開示と建設的な対話の充実を図ると同時に、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指し、コーポレートガバナンス体制のさらなる充実を最重要経営課題の一つとして継続的に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長兼CEO(最高経営責任者)

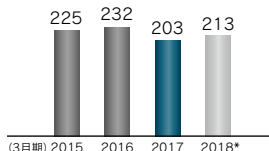
小飼 雅道

市場別ハイライト

販売台数(千台)

日本市場

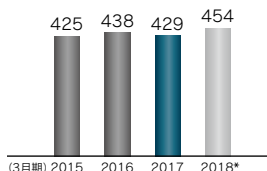
203千台
(前期比13%減)



- 当期の販売台数は前期比13%減の20万3千台
- シェアは同0.7pts減の4.0%、登録車シェアは同1.2pts減の4.9%
- 2016年12月に新型「ロードスターRF」、2017年2月に新型「CX-5」を導入、販売モメンタムの改善に貢献
- 次期の販売台数は当期比5%増の21万3千台の見通し

北米市場

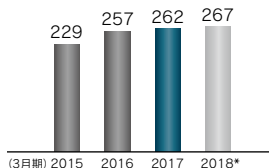
429千台
(前期比2%減)



- 当期の販売台数は前期比2%減の42万9千台
- 米国では乗用車セグメントの販売環境が厳しく、同1%減の30万2千台
- メキシコではペソ安に対応した値上げによる販売減で、同9%減の5万3千台
- 次期の販売台数は当期比6%増の45万4千台の見通し

欧州市場

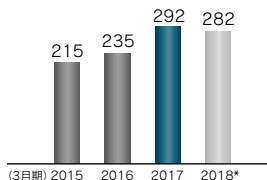
262千台
(前期比2%増)



- 当期の販売台数は「CX-3」および「MX-5」が台数貢献し、前期比2%増の26万2千台
- ロシアを除く欧州は、同3%増の24万台
- ロシアは需要縮小とルーブル安により、同10%減の2万2千台
- 次期の販売台数は当期比2%増の26万7千台の見通し

中国市場

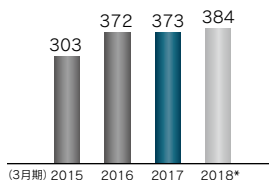
292千台
(前期比24%増)



- 当期の販売台数は前期比24%増の29万2千台となり、過去最高の販売台数を達成
- 小型車減税政策の効果もあり、「Mazda3」が販売を牽引
- 「Mazda6」、「CX-5」の商品改良モデルが台数貢献
- 次期の販売台数は当期比3%減の28万2千台の見通し

その他市場

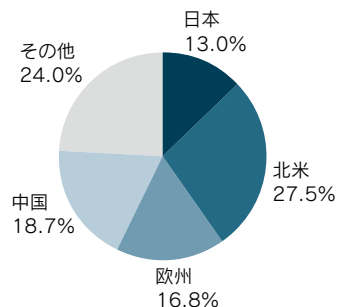
373千台
(前期比1%増)



- 当期の販売台数は前期比1%増の37万3千台
- オーストラリアでは同2%増の11万8千台と過去最高の販売台数、メーカー別販売で第2位
- ASEANでは同4%増の10万5千台。タイで同2%増となったほか、ベトナムで同45%増を達成
- 次期の販売台数は当期比3%増の38万4千台の見通し

グローバル販売台数

1,559千台
(前期比2%増)



* 2018年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

	2017/3末	2016/3末
資産の部		
流動資産	13,424	13,937
固定資産	11,822	11,547
有形固定資産	9,593	9,375
無形固定資産	332	307
投資その他の資産	1,896	1,864
資産合計	25,246	25,484

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

	2017/3末	2016/3末
負債の部		
流動負債	9,960	10,065
固定負債	4,645	5,652
負債合計	14,605	15,717
純資産の部		
株主資本	9,420	8,674
その他の包括利益累計額	974	866
新株予約権	1	—
非支配株主持分	245	227
純資産合計	10,640	9,767
負債純資産合計	25,246	25,484

連結損益計算書(要旨)

(単位：億円)

	2016/4 – 2017/3	2015/4 – 2016/3
売上高	32,144	34,066
売上総利益	7,662	8,391
営業利益	1,257	2,268
経常利益	1,395	2,236
税金等調整前当期純利益	1,284	1,670
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	938	1,344

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

	2016/4 – 2017/3	2015/4 – 2016/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,611	2,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△638	△1,081
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,499	△941
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	△211
現金及び現金同等物の増減額 (△減少額)	△464	396
現金及び現金同等物の期首残高	5,687	5,291
現金及び現金同等物の期末残高	5,269	5,687

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

TOPICS

2016.11.4

米国環境保護庁 (EPA) 燃費トレンドレポートの「企業平均燃費値」で4年連続総合1位獲得

EPAの「燃費トレンドレポート」*1は、2015モデルイヤーとして米国で発売された車種の燃費動向をまとめたもので、各社別に企業平均燃費実績値*2を集計した結果などが公表されています。マツダの2015モデルイヤー車総合の平均燃費は、29.6mpg (マイル毎ガロン) で、前年比0.2mpgの改善となりました。

*1 燃費トレンドレポート：EPAが公表している1975年以降の新車 (乗用車と小型トラック) の燃費値の推移をまとめた年次報告書。 <http://www3.epa.gov/otaq/fetrends-complete.htm>

*2 企業平均燃費実績値：各社が一年間に販売した車の平均燃費。EPAの「燃費トレンドレポート」では、EPAが定めた手法による各車種の燃費値 (市街地と高速道路走行時) をモデルイヤー (年式) ごとに販売台数に応じて加重平均している。

2016.12.1

「アクセラ」、2016年度自動車アセスメント予防安全評価において最高ランク「ASV++」を獲得

マツダの先進安全技術「i-ACTIVSENSE (アイ・アクティブセンス)」を搭載した「マツダ アクセラ」が、2016年度自動車アセスメント予防安全評価において、最高ランク「ASV++ (エースブイダブルプラス)」を獲得しました。



歩行者対応自動ブレーキ試験の様子 (写真提供: NASVA)

2016年

11月

12月

2017年

1月

2016.11.18

「CX-4」が「2017中国カーデザイン・オブ・ザ・イヤー」を初受賞

中国自動車専門メディア編集長クラブとPRIME RESEARCH & Consulting (Shanghai) 社が主催する「2017中国カー・オブ・ザ・イヤー (第4回)」において、「マツダ CX-4」が「2017中国カーデザイン・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。



「CX-4」

2016.12.16

防府工場で「CX-3」の生産を開始

防府第1工場 (山口県防府市) において、2016年12月15日からコンパクトクロスオーバー SUV 「マツダ CX-3」の生産を開始しました。これにより、グローバルに高まるSUV需要に対する車両供給体制を強化します。



「CX-3」防府第1工場生産1号車

2017.2.2

新型「CX-5」を発売

新型クロスオーバー SUV「マツダ CX-5」の販売を2017年2月2日より開始しました。新世代商品群として初めてのフルモデルチェンジとなる新型「CX-5」は、走りやデザイン、質感、安全性能など、多くのお客さまから共感をいただいています。



新型「CX-5」

2月

2017.3.13

防府工場における 新型「CX-5」の生産を決定

本社工場で生産している新型「CX-5」を、2017年11月から防府工場においても生産することを決定しました。2017年2月に国内で販売を開始した新型「CX-5」は、発売から約1カ月で月間販売計画台数の約7倍に当たる16,639台を販売し、お客さまからご好評をいただいています。

3月

4月

2017.2.21

「健康経営優良法人 ～ホワイト500～」に認定

健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みの中で、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度であり、2017年度より運用が開始されたものです。マツダは、規模の大きい企業や医療法人を対象とした「大規模法人部門」において、同認定を取得しました。

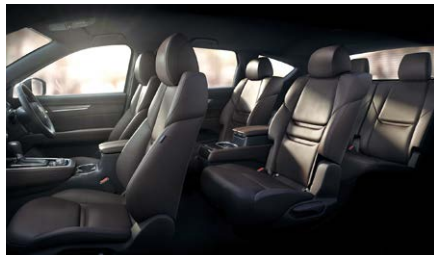
今回の認定取得を励みに、今後も従業員が心身ともに健康で、活力と一体感のある職場づくりに取り組むとともに、良き企業市民として地域・社会に貢献してまいります。

2017.4.28

新型クロスオーバー SUV 「CX-8」の導入を公表

国内向け新世代商品として、初めての3列シート採用モデルとなる新型クロスオーバー SUV「マツダ CX-8」を2017年中に国内で発売することを発表しました。

「CX-8」は、マツダらしい走りやデザイン・質感を備えながら、3列目まで大人がしっかり座れるパッケージングを実現した、国内市場向けSUVラインアップにおける最上位モデルであり、多人数乗車とともに上質さを求めた、お客さまに向けた、マツダの新しい提案です。



「CX-8」(6人乗り仕様)

主要商品ラインアップ

マツダは、高品質なクルマづくりを含め、お客さまとのさまざまな接点を通じて、お客さまの人生をより豊かにし、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。



ドライバーだけでなく同乗者も含めた すべてのお客さまを笑顔にするSUV

Mazda CX-5

スタイル	SUV / クロスオーバー
エンジン	ガソリン: 2.0L / 2.5L ディーゼル: 2.2L
燃費 *1 (JC08モード)	ガソリン: 14.6 ~ 16.0 (km/L) ディーゼル: 17.2 ~ 18.0 (km/L)
価格帯 *2	246 ~ 352 (万円)

新世代商品群として初めてのフルモデルチェンジとなる新型「CX-5」は、ドライバーだけでなく同乗者も含めた「すべてのお客さまを笑顔にするSUV」をキーワードに、いまマツダが持つデザインと技術のすべてを磨き上げ、あらゆる領域で「走る喜び」を深化させたクロスオーバーSUVです。

デザインは「洗練された力強さ」をキーワードに掲げ、「魂動」のコンセプトをより高い次元へと昇華させることに挑戦。つややかさと精悍さを融合させた外観と、すべての乗員が心地よさを感じられる内装に進化させました。またボディカラーには「魂動デザイン」の造形を質感高く際立たせる新開発の「ソウルレッドクリスタルメタリック」を初めて採用しています。

マツダはソーシャルメディアを通じて、さまざまな情報を発信しています。



オフィシャルホームページ
URL <http://www.mazda.co.jp/>



オフィシャルFacebook
URL <https://www.facebook.com/Mazda.Japan/>



オフィシャルブログ
URL <http://blog.mazda.com/>



オフィシャルTwitter
URL https://twitter.com/Mazda_PR/

Mazda DEMIO

海外市場での車種名 : Mazda2



スタイル	コンパクト
エンジン	ガソリン: 1.3L / 1.5L ディーゼル: 1.5L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 19.2 ~ 24.6 (km/L) ディーゼル: 22.8 ~ 30.0 (km/L)
価格帯*2	138 ~ 224 (万円)

Mazda AXELA

海外市場での車種名 : Mazda3



スタイル	4ドアセダン / 5ドアスポーツ
エンジン	ガソリン: 1.5L / 2.0L (ハイブリッド) ディーゼル: 1.5L / 2.2L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 17.8 ~ 20.6 (km/L) ディーゼル: 18.0 ~ 21.6 (km/L) ハイブリッド: 28.0 ~ 30.8 (km/L)
価格帯*2	176 ~ 331 (万円)

Mazda ATENZA

海外市場での車種名 : Mazda6



スタイル	4ドアセダン / ステーションワゴン
エンジン	ガソリン: 2.0L / 2.5L ディーゼル: 2.2L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 16.0 ~ 17.4 (km/L) ディーゼル: 18.2 ~ 22.4 (km/L)
価格帯*2	276 ~ 400 (万円)

Mazda CX-3



スタイル	SUV / クロスオーバー
エンジン*3	ディーゼル: 1.5L
燃費*1 (JC08モード)	21.0 ~ 25.0 (km/L)
価格帯*2	237 ~ 303 (万円)

Mazda ROADSTER

海外市場での車種名 : Mazda MX-5



スタイル	スポーツ
エンジン	ガソリン: 1.5L
燃費*1 (JC08モード)	17.2 ~ 18.8 (km/L)
価格帯*2	249 ~ 319 (万円)

Mazda ROADSTER RF

海外市場での車種名 : Mazda MX-5 RF



スタイル	スポーツ
エンジン	ガソリン: 2.0L
燃費*1 (JC08モード)	15.6 (km/L)
価格帯*2	324 ~ 373 (万円)

*1 国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコン使用時など）に応じて燃料消費率は異なります。

*2 記載の価格はメーカー希望小売価格（消費税8%込。1万円未満は切り捨て）です。別途リサイクル料金が必要となります。

*3 2017年6月28日現在の情報。ガソリンエンジンモデルの情報につきましては、マツダのオフィシャルホームページをご覧ください。

マツダの先進安全技術

「i-ACTIVSENSE」を標準装備化

マツダは、日本国内で販売するほぼすべての新世代商品^{*1}を対象に、先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」^{*2}の標準装備化を2017年度中に行います。この取り組みは、運転初心者から高齢者まで、さらに多くのお客さまへ、より安全・安心なクルマをお届けするためのものです。第一弾として、「i-ACTIVSENSE」を標準装備した「マツダ デミオ」を2017年4月より発売しています。

また、今回標準化する装備以外にも、夜間や長距離走行など、さまざまなお客さまの使用形態にあわせた装備を既に実用化しています。

2017年度に標準装備化予定の先進安全技術

運転中、少し気を抜いていたら、前のクルマにぶつかりそうに！



※前進時作動イメージ

そんな時のために

衝突被害軽減ブレーキ^{*3}

市街地などを低速～中速で走行中に、前後方向の車両などの障害物と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速・停止し、衝突回避または被害軽減を図ります。

バックでクルマを出す時、後ろに下がるつもりが、前に進んでしまった！



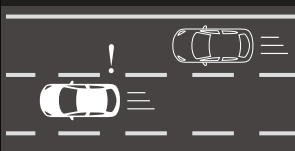
※前進時作動イメージ

そんな時のために

AT誤発進抑制制御

徐行時や停車時、前方または後方に障害物があるにも関わらずアクセルが一定以上踏み込まれた場合には、警報と同時にエンジン出力を抑えて急発進を抑制します。

車線変更の時、ななめ後ろの死角にいたクルマに気がつかない！

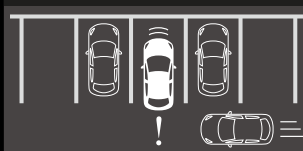


そんな時のために

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)

約15km/h以上の走行時、隣車線上の側方および後方から接近する車両を検知すると、検知した側のドアミラーのインジケーターが点灯。その状態でウinkerを出すと、インジケーターの点滅と警報音で警告します。

駐車場からバックで出る時、隣に駐車している車両の陰から急に現れたクルマにヒヤリ！



そんな時のために

リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)

駐車場からバックで出る際などに接近してくる車両を検知してドライバーに警告し、安全確認をサポートします。

^{*1} 「ほぼすべての新世代商品」は、2012年以降に日本国内で発売されたマツダ車の現行モデルのうち、「マツダ デミオ」、「マツダ アクセラ」、「マツダ アテンザ」、「マツダ CX-3」、「マツダ CX-5」を指します。

^{*2} 「i-ACTIVSENSE」は、ドライバーへの認知支援および衝突回避のサポートや被害軽減を図るマツダの先進安全技術の総称です。

^{*3} 車種に応じて「SCBS F（スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時]）」、「SCBS R（スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時]）」、歩行者検知機能が加わった「アドバンスドSCBS（アドバンスド・スマート・シティ・ブレーキ・サポート）」のいずれか（複数の場合を含む）が標準装備となります。

「アクセラ」が2016年度 自動車アセスメント*1 予防安全評価において 最高ランク「ASV*2 ++」を獲得

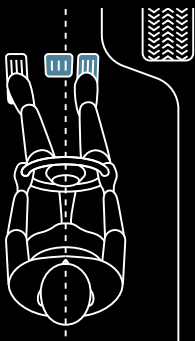
マツダは安全をクルマの基本設計から考える。 「こだわりのドライビングポジション」

正しいドライビングポジションは、適切なペダルレイアウトから生まれます。自然に足を伸ばした先にペダルを配置することで、ドライバーの疲労を軽減するだけでなく、危険な状況に遭遇した際、瞬時に動けるように設計しました。

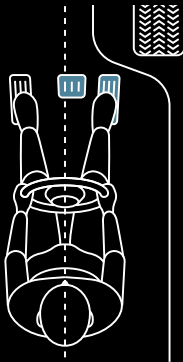
安全・安心は走る喜びを支えるからこそ、マツダ独自のこだわりとしてクラスを問わず反映しています。

マツダは「安全」を
クルマの基本設計から考え、追求しています

従来のペダルレイアウト



理想のペダルレイアウト



最高ランク「ASV++」を獲得した「アクセラ」は、「i-ACTIVSENSE」の装備として、「アドバンスドSCBS（アドバンスド・スマート・シティ・ブレーキ・サポート）」*3を搭載しており、2016年度の自動車アセスメント予防安全評価から新たに評価項目として加わった歩行者対応自動ブレーキ評価において、最高得点の好成績を収めています。

「アクセラ」をはじめ、「i-ACTIVSENSE」を搭載したマツダ車は、さまざまな環境で全方向にわたる危険の認知を人間中心の発想でサポートし、事故を未然に防ぐことを目指しており、これまでの自動車アセスメント予防安全評価では、評価対象の全車種で最高評価を獲得しています。

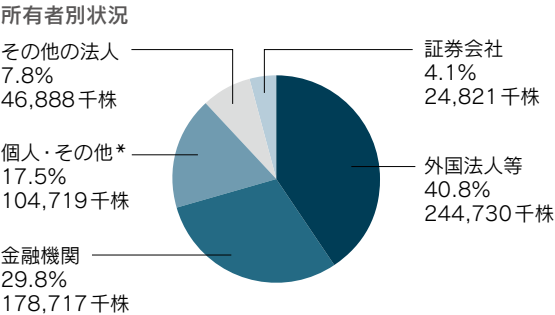
*1 自動車アセスメント（JNCAP）は、国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が、安全な自動車の普及を促進する目的で、平成7年度より公表している自動車の安全性能評価。現在市販されている自動車の安全性能について衝突安全性能、歩行者保護性能などに加え、平成26年度から予防安全性能の評価結果を公表しています。

*2 ASV：Advanced Safety Vehicle

*3 前方の歩行者や先行車をカメラで検知し（対車両：約4～80km/h走行時、対歩行者：約10～80km/h走行時）、ブレーキを自動制御して衝突回避のサポート、または衝突被害の軽減を図ります。

株式の状況 (平成29年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,200,000,000株
発行済株式総数 599,875,479株
株主数 151,191名
(前期末比7,411名減少)



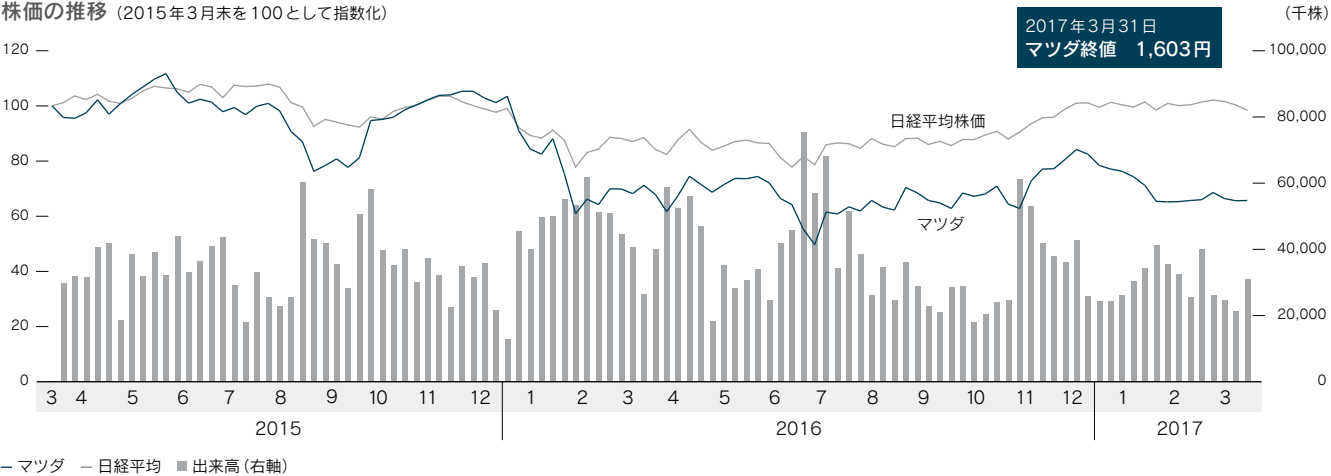
*「個人・その他」には自己株式が含まれています。

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	39,174	6.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	27,603	4.6
株式会社三井住友銀行	12,857	2.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	11,631	1.9
THE BANK OF NEW YORK 133972	9,307	1.6
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	8,776	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	8,590	1.4
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	8,586	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	8,518	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	8,480	1.4

(注) 持株比率は、自己株式2,052,632株を控除して計算しています。

株価の推移 (2015年3月末を100として指数化)



会社概要／株主メモ

会社概要（平成29年3月31日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	連結:48,849名 単独:21,400名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082) 282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番7号 電話(03) 3508-5031
ホームページURL	http://www.mazda.com/ja/

取締役および監査役（平成29年6月28日現在）

代表取締役会長	金井 誠太
代表取締役	小飼 雅道
代表取締役	丸本 明
取締役	中峯 勇二
取締役	稲本 信秀
取締役	菟浦田 清孝
取締役	藤原 清志
取締役	小野 満
取締役	坂井 一郎
取締役	城納 一昭
監査役(常勤)	河村 裕章
監査役(常勤)	安田 昌弘
監査役	平澤 正英
監査役	堀田 隆夫
監査役	玉野 邦彦

株主メモ（平成29年3月31日現在）

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
基準日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/	
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
・郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
・電話お問合せ先	☎ 0120-782-031	
・ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	
単元株式数	100株	
証券コード	7261	

オフィシャルウェブサイトもご活用ください

株主・投資家情報

社長メッセージや決算資料、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。



<http://www.mazda.com/ja/investors/>

CSR

環境保全、社会貢献、安全への取り組み、サステナビリティレポートへのリンクなど、さまざまな情報を掲載しています。



<http://www.mazda.com/ja/csr/>

マツダ株式会社



本誌は植物油インキを使用しています。

表紙掲載車種 新型「マツダ CX-5」